

「雑草魂」 第 6 6 号

2021.2.4(木) 編集責任者：橋山 直記

☆私立高校入学申込み☆

私立受験お疲れ様でした。ほとんどの人が人生初の受験で、学校の実力テストより緊張したことだろう。終わってしまった入試のやり直しは必要だが、後悔ばかりしていてもしょうがない。ドラえもん（ハシエもん）の名言で言うなら、『目が前についてるのはなぜだと思おう？前へ前へと進むためだ！すぎたことにくよくよせず、前向きに頑張りなさい。』といったところだ。君たちはこれから公立受験がまっている。今回の入試の反省を、公立受験の合格につながるよう、前向きに歩いていこう。

さて、とはいったものの、明日はほとんどの私立高校の合格発表になる。ドキドキしながら発表を待つ人、自信満々な人と様々だろう。そして合格したら、通知書やこれからの手続きの流れなどを渡す。必ずもらった日に保護者にそのまま渡すように！その中に入学申込金についてのプリントがあるので、期日までに入学申込金を振り込まないとズバリ合格は取り消されてしまう。今までにこういう生徒（保護者）がいたので紹介する。

前期合格者には、入学申込をしたかを必ず聞く。



先生：「入学申込は終わりましたか？」

A 君：「はい、してます。」

この言葉を信用してたのだが、実は A 君の家庭は入学申込をしてなかったのである。

私はまったくそういうことを知らず、県立発表の日に A 君に電話した、

先生：「残念な結果やったけど、私立に行って頑張れよ！」

A 君：「はい！わかりました。」

そしてその午後 A 君の親から電話があった。

親：「先生、実は私立の申込みしてなかったんです。塾の先生がこの調子なら県立合格しますよって言われて安心して入れなかったんです。でも県立がダメでどうにかなりませんか。お願いします。」

そしてその私立高校に問い合わせても「それはムリです」と言われた。そこで校長と一緒にその私立高校へ行ったがやはりダメであった。もしそういうことができるなら県立の発表後も OK ということになり、入学申込みをしない人もでてくるだろうし、そういう例を一度でも認めたら今後も認めないといけないという理由だった。当然である。

結局 A 君はその時たまたまあった別の高校の 2 次募集で受験し、まったく行く予定のない高校へ進んだのである。

昨日の西日本新聞記事より

素直な自分で生きるために
(新宮町・高校生)

高校生になってから、今の自分はどうかありたいかとよく悩むようになった。現代文の授業で夏目漱石の「こころ」を学び、人間らしい複雑な感情が繊細に表現されているのに驚き、自分の弱点についてより考えさせられた。自分になりしものを相手が全て持っているような気がして怖くなることもある。

私の友達にとっても正直な人がいる。常に自分の良心に従い、行動することが他の人を引きこむ清らかな魅力を生んでいるのだと思う。他人と自分に正面から向き合い、言葉を発する。そしてその言葉に温かみが含まれていることに毎回感動してしまう。

そうなりたいと意識するが、自分の中にあるもういようで壊れない何かがあるとなかなか真つすぐに進めない。日々生まれる感情がこんなにも自分を苦しめることを私は知らなかった。しかも、その苦しみは人に見えない。自分でも操作できない。心の底ではびこり続ける。私はまだ自分に素直に生きられるほど強くない。